

日清医療食品、九州の企業買収 乳幼児の弁当給食に参入

介護施設などの事業所給食大手の日清医療食品（東京・千代田）は、乳幼児向けの弁当給食に参入する。福岡県内で保育所や幼稚園向け弁当給食を手掛けるのぼる（北九州市）をこのほど買収した。弁当製造のノウハウを蓄積し、九州以外にも事業エリアを順次広げる計画だ。共働き世帯の増加を背景に市場が広がる保育施設向けの需要を取り込む。

日清医療は一部地域で保育所向けの給食サービスを提供してきた。ただ、厨房施設がない小規模な施設には対応できなかったほか、乳幼児向けの弁当を製造する設備も持っていなかった。のぼるの工場を活用して提供施設を増やす。将来は新工場の建設も検討する。

—日経MJ2017.9.6—

太子食品工業

生で食べられる油揚げ

【青森】豆腐製造大手の太子食品工業（青森県三戸町）は豆腐の生地を成型せずに揚げる独自製法で作った油揚げ「北の大豆 きぬ練りおあげ」を発売した。従来品にない柔らかい食感で生で食べられるのが特徴。戦略商品としてサンドイッチのパンの代わりにやピザの生地にするなど油揚げの新しい食べ方を提案し、月60万個の販売を目指す。

従来の油揚げは固形の豆腐生地をプレスして水を切り、短冊状にカットして油で揚げる。これに対し、新製法は豆腐生地が固まる前のどろどろの状態で型枠に入れて揚げるので、しっとり柔らかく、口の中で溶けるような食感だという。成型と水切り工程がないので製造時間を約2割短縮でき、製造機械の設置スペースも4割ほど小さくできる。同社は新製法の開発に5年かけ、日光工場（栃木県日光市）に約6億円を投じて専用の製造設備を導入した。

—日経MJ2017.9.20—

■家電販売 3年ぶり拡大へ

調査会社のGfKジャパン（東京・中野）は2017年の家電販売の市場規模が、7兆円だった16年を「やや上回る」との予測を示した。前年を上回るのは3年ぶり。近年低調だったテレビなどに底打ち感が見られるとしている。生活家電でも洗濯機の販売が伸びるほか、エアコン販売も前年を超える見通しだという。

—日経MJ2017.9.1—



街の本屋さん コンビニになる

今夏、兵庫県の街の本屋さんがファミリーマートになった。コンビニと書店が融合した「コンビニ書店」の誕生だ。その背中を押したのは日本出版販売（日販）。本屋にとってコンビニは敵ともいえる存在だが、オーナー確保に悩むファミマとタッグを組んだ。

兵庫県加西市。7月、50年の歴史をもつ書店が業態転換した。店名は「ファミリーマート+西村書店加西市」。書店がファミマに加盟し、コンビニと書店が融合した。

店内に入るとコンビニの5倍近い約700平方メートルの空間が広がり、児童書、新刊書、雑誌などが並び、レジカウンターが店のど真ん中にあり「ファミチキ」を販売。その奥がコンビニでチルド総菜や菓子、冷凍食品など3000品目が並び、イトインのほかに座りながら本を読めるスペースやぬいぐるみで遊べるキッズコーナーも。

実は日販とファミマはコンビニ書店を展開していこう

と2年ほど前から話し合いを進めていた。持ちかけたのは日販。「コンビニの力を貸してほしい」。経営が苦しくなる書店が増えるなか、ファミマとの融合に生き残りの道を模索した。

ファミリーマート+西村書店加西市の滑り出しは順調だ。客単価は1100円前後に下がったが、客数が伸びて売上高は8割増に。とはいえ、両社の狙い通りに広まる

とは限らない。たださえ懐事情が厳しいなかで、高い加盟料を払ってコンビニに活路を見いだす書店のオーナーがどれだけいるだろうか。



—日経MJ2017.9.4—